

深くて青い君の跡

作
中山
信之

【登場人物】

望月 晋也 ゲーム制作会社 SHI-GA 社員プログラマ

清水 彩乃 望月の姉

岸 直美 SHI-GA 社長

湯島 凜 SHI-GA 社員 年齢不詳のスーパープログラマ

龍崎 光 SHI-GA 社員 望月の先輩プランナー

古賀 三四郎 SHI-GA 社員 新入社員

千田 有希子 東都大学教授 人工知能研究所 所長

河合 誠 人工知能研究所 職員

武藤 涼子 人工知能研究所 学生

チヒロ AI 人格 アンドロイド

▽1場

人工知能研究所オフィス。警報が鳴っている。どこからかハッキングを受けている。コンピュータに向かう千田、河合、武藤。

千田 河合君、ハッキング元割り出し急いで！

河合 やってます！

千田 武藤さんは追跡ウォールを立ち上げて！

武藤 しかし、相手はすごいスピードで……。

千田 わかっている！何とかしなさい！

武藤 何とかっていつても。既に相手の攻撃で研究所内のネットワークはマヒしています！

千田 目的は一体？

武藤 あ！チヒロが、チヒロが消去されます！

河合 チヒロが！？

千田 コード2002。防いどー！

河合 成功です。これで

武藤 コアセグメントに侵入！

千田 早い！

河合

くそっ。メインコンピュータ、切り離しますか？

武藤

そんな……先生の研究成果が水の泡になってしまいます。……こんなところにもバックドアが。もう……限界です！

河合

後、3分でメインコンピュータに届きます。所長！ご判断を！

千田

……。

河合

所長！

千田

しかたないわね……。武藤さん、マニュアルディスクコネクットのシーケンスに入って。

武藤

通信ケーブルを抜いてしまえば！

河合

バカでかい一枚基盤にサブコンピュータと一緒に結線されてんだ。できるわけないだろ。

武藤

わかりました。メインコンピュータ切断します。……切断……できません！

千田

どういうこと？

武藤

わかりません！

河合

涼ちゃん、貸して。武藤のPCを操作してダメだ。ダメ！カーネルにすげかえられてる。

武藤

メインコンピュータ、制御不能です。

千田

予測より全然早いじゃない！

河合

チヒロが……転送されていきます。

千田

そんな……。

武藤

こちらの接続は全て切られました。もう、何もできません。

河合

逃げられた……か……。

千田

指をくわえて見てることすらできないって訳ね。

オープニングアクト

武藤

こんなこと、不可能です！あり得ません！あのセキユリテイを突破してくるだなんて！

千田

そういうことか。

武藤

え？

千田

攻撃は外部からじゃなかった。

武藤

まさか、彼女自身の意志？

河合

そんなことって……

武藤

阻止できないわけですよ。防衛ラインより後ろから攻撃されてるんだから。

河合

義体は？チヒロはただのAIだ。プログラムだ。きっと自分を義体に転送したはずだ。

武藤

開発中のチヒロ専用義体は……。

千田

横浜よ。

▽2場

朝。ゲーム制作会社SHI-GA

コンピュータに向き合っている湯島。

望月、古賀がいる。電話で話している岸。

岸
ええ、はい。……ええ、ですから次は……はい。

望月、岸の様子をうかがいながら。

望月
小声で) おい、古賀、おい。

古賀
小声で) え？あ、はい。どうしました？

望月
なんかやばそうじゃない？

え？

岸
電話中) はい。すみません。……いや、それはですね、私達も人手不足でして……。

確かに。

望月
KIN-KI?

古賀
多分。

龍崎入って来る。右手がビニール袋で包まれている。

龍崎
おはよー。

古賀
おはようございます！

湯島
おはよう。

望月
龍崎さん、どうしたんですか？それ。

それ？

望月
右手。

龍崎
よくぞ聞いてくれた。望月君。これは愛と信頼の証しだ。

望月
あー。地下アイドルの握手会ですか。

龍崎
地下アイドルって言うな。らびたん。らびたん。

望月
先月は違う子だったような……。

龍崎
もう俺は先月までの俺ではない。らびたんと会って生まれ変わったのだ。新生俺！

Wow Wow セーいぎのーびーむをー♪」

望月
こないだも似たようなこと言ってたような……。

古賀
先輩、それで仕事するんですか？

龍崎
当たり前だろ、俺とらびたんが繋がったあの瞬間を永遠にとどめる為にもはずす事は

望月 できぬ。できぬのだ。
はあ……。

古賀 先輩！声が大きいですよ。
おっと。社長、電話中？

古賀 ええ。親会社からみたいです。
望月 それが、ちょっとやばそうな雰囲気なんですよね……。

三人聞き耳を立てる

岸 はい。……はい。しかし現在の体制ではこれ以上のクオリティは……。

岸の電話は続く。湯島は動じず仕事を続けている。

古賀 新作の「ポケットときめきクエスト」、売れて無いっすもんねえ。

龍崎 あんなもん最初から売れるわけなかったんだよ！伝説の勇者が伝説のお姫様と伝説の樹の下で伝説のボール投げて伝説のモンスターを捕まえるゲームなんて、お前金出して買うか？

望月 やっぱちょっと「伝説」多すぎましたかねえ。

古賀 今時はああいう重ーいストーリーよりもスマホゲームみたいに気軽に遊べる方がウケるんですかねえ。

湯島 仕事中。

古賀 すみません！

とはいえ、穏やかじゃないようね。

望月 でも、あれだってKIN-KIからよこされた企画ですよね。
龍崎 ー。

望月 売れない企画を制作子会社に押しつけといて、実際売れないから次の予算がつかないって、おかしくないですか？

龍崎 まあな。

古賀 龍崎先輩、ウチの会社、ホントに大丈夫なんですか？憧れのゲーム会社に入ったらあつという間に倒産なんて洒落になんないっすよ。

龍崎 おいおい、めったな事いうもんじゃねーよ。
古賀 そうですけど……。

龍崎 学生時代にもっと勉強するとか、いい作品創るとかすりゃあもったちゃんとした大手メーカーに入れたんだ。

古賀 はあ。

湯島 今からでも遅くはないわよ。

古賀 何言ってるんすか。変なトコ入って、センスのないヤツが作ったクソゲーを「面白いですよ!」ってユーザ騙した宣伝して売るのが仕事なんてまっぴらですよ。コンピュータゲームは芸術です。魂のこもった作品を世に出すのが僕の子供の頃からの夢なんです!

望月 その話、30回は聞いたよ。

龍崎 じゃあその魂でアンケート分析な。昨日のやつ、どっちもボツ。

古賀 はい!

龍崎 元気だけは一人前だな。

古賀 はい!

望月の携帯が鳴る。メール着信音。

望月 あ。

湯島 仕事中はマナーモードにしておきなさい。

望月 すみません。メールをチラッと見てマナーモードに)

龍崎 彼女か!彼女なのか!

望月 違いますって。迷惑メールですよ。

龍崎 ホントかあ?

望月 「2000万円受け取ってください」私は某アイドルグループのマネージャーです」

古賀 2000万円!

龍崎 アイドル!

龍崎・古賀 ってねえ。

二人、笑う。

望月 最近急に増えたんですよねえ。

古賀 ブロックしちやえばいいじゃないですか。

岸 (電話中) ええ、では、失礼します。

岸、電話を切る。

望月、龍崎、古賀あわてて仕事に戻る。

龍崎 社長、KIN-KIからですか?

岸 あら、龍崎君。盗み聞き?

龍崎 いやいや、そりゃ聞こえちゃいますってば。というか、お困りのようでしたし。なあ、

湯島。

湯島、龍崎をにらむ。

湯島

すみません。私達も気になってしまっ

望月

今度はどんな無茶言ってきたんですか？

岸

次回作の話よ。予算もたっぷり付くって。

龍崎

ホントですか？それにしちゃ……その……難しい話のような……

岸、周りを見渡して

岸

緊急ミーティングを開きましょう。15分後に会議室に集まって。

一同

(口々に) はい。

岸

あ、龍崎君、そのビニール袋はずしなさい。

龍崎

いや、これはですね、僕とらびたんの……

岸、龍崎をにらむ。

龍崎

は……はい。

▽第3場

夜の街中。龍崎と望月が一緒に帰宅中。

龍崎 企画、企画、企画なあ……。.

望月 ですねえ……。

龍崎 こないだ古賀と考えてた恋愛シミュレーションはどうなった？

望月 僕、やっぱり育成系ゲームって苦手なんですよねえ。彼女とか、ペットとか。

龍崎 俺、アイドル育てるゲームは好きだけだな。

望月 夢中で遊んでるうちは良いんですけど、ゲームに飽きてくるとだんだん起動しなくなるじゃないですか。

龍崎 ああ。まあな。

望月 久しぶりに電源入れた時に「きみしかったよ」とか言われちゃうと「ごめんなさいごめんなさいごめんなさい」って気持ちになっちゃって。

龍崎 なるほど。

望月 中古ゲーム屋さんに並ぶラブプラスやニンテンドッグスを見るたびに泣きたくなります。

龍崎 売られてなお彼を待つ美少女やご主人様を待つ子犬。

望月 想像するとツライ！ツラすぎる！

龍崎 うーん……。

しばらく考える2人。

望月 お。

龍崎 お？

望月 音声認識で魔法の呪文を唱えるゲームとか！

龍崎 ゲーム機に向かって喋んの？

望月 ですよ。やばい！体力回復しなきゃ。ホイミー！」って。

龍崎 なるほど。

望月 ちゃんと呪文を覚えて、ちゃんと唱えないと魔法が使えないんですよ。難しい呪文とか、例えば…… 寿限無 寿限無 五劫の擦り切れ 海砂利水魚の水行末、雲来末、風来末 食う寝るところに住むところ……」

龍崎 わかったわかった。

望月 どうすかね？

龍崎 面白そうだけど、電車の中でやってるヤツいたらひくなあ。DyH」。

望月 DyH……

龍崎 (D)電車の中で (X)やってるヤツいたら (H)ひく。

望月 確かに。 って、それなんすか？

龍崎 それ？

望月 変な略。

龍崎 ああ。 ちょっとカッコいいじゃん。

望月 カッコいい……ですかねえ……？例の地下アイドルの真似？

龍崎 う、そんなことはないぞ……。

望月 ……。

龍崎 シン、ホームページって何て略す？

望月 HPですかね？

龍崎 ヒューレットパッカーは？

望月 コンピュータメーカーですよ。 ああ、HPですね。 同じだ。

龍崎 お前、車かバイク乗るか？

望月 原付なら昔ちよつと。

龍崎 日本特殊陶業株式会社って知ってる？

望月 いいえ。

龍崎 一部上場企業だぞ。 知っとけ、それくらい。 その会社、NGK っていう商標でスパークプラグ作ってるんだよ。 点火プラグ。

望月 ああ、聞いたことがあります。 E1で車体にステッカーが貼ってあったような。

龍崎 関西人にNGK って何ですかって聞いてみる。

望月 え？

龍崎 なんばブランド花月だ。

望月 おおお。

龍崎 そういふことだ。

望月 え？

龍崎 他にもあるぞ。 Dr. はドクターなのかドラムスなのか。 AC は交流電流なのか公共広告機構なのか、あまちゃんは能年玲奈なのか のん」なのか。

望月 最後のは違くないです？ っていうか古くないです？

龍崎 そういふことなんだよ。

望月 龍崎さん……。 言いたいだけなんですわ……。

清水入って来る。

望月 姉ちゃん？

清水 あ。

龍崎 どした？

望月 何してるの？こんなところで。

清水 あは、見つかっちゃった。って、こんなところではないでしょ？晋也んちでアンタを待ってたのよ。今日行くって言ってあったでしょう？遅いから外まで見にいこうかなって。

望月 あ、そっか。ごめん、忘れてた。

龍崎 なんなんだ。彼女か？

望月 あー……、すみません。龍崎さん、（清水を差しして姉です。家がすぐそこで、良くウチに来てくれるんです。姉ちゃん、こちら龍崎さん。会社の先輩でいつもお世話になってるんだ。

清水 はじめまして。清水彩乃です。晋也がいつもお世話になってます。

龍崎 龍崎です。こちらこそお世話になってます。あれ？清水さん？

望月 結婚して苗字が変わってて。

龍崎 ああそうでしたか。なるほど。

清水 どうですか？晋也、ちゃんと働けてます？

龍崎 そりゃあもう、望月君は我が社を支えるスーパープログラマー！の見習い！の卵！の候補生！の準備中！ですよ。

望月 龍崎さん！

龍崎 冗談です冗談です。いつも助けてもらってます。

清水 本当にそうならいいんですけど。

龍崎 大丈夫ですって。ご安心ください。

清水 望月をみて（自分の身の回りのこともまともにできないのにホントに仕事なんてできるのかしら。キッチンのゴミ箱の周りひどかったわよ。

望月 あー……。

清水 カップ麺ばかりじゃなくて、ちゃんとお野菜を食べるのよ。カレー冷凍庫に入れておいたから。

望月 うん。ありがとう。

龍崎 いいお姉さんだなあ、シン。あんまり心配かけんなよ。彩乃さん、困ったことがあったらいつでも言うってくださいね。

望月 龍崎さんてば！

清水 あはは。わかりました。えっと、飲みにも行くところ？

望月 いやそれがさ、急遽、売れるゲームの企画を考えなきゃいけなくて、先輩のお知恵を拝借してたってわけ。

袖に岸 登場。

岸
企画書を各自3件以上。来週明けまでに出してください。職種における例外はありません。次回作も売上が低迷するようであれば株式会社 SHI-GA は解散。親会社である KIN-KI ホールディングスに吸収されることになります。

岸 去る。

清水 なるほど……。で、どう？良いアイデア出た？

望月 売れるゲームのアイデア出せて言われて、はいよって出せるなら苦労しないよ。

清水 そりゃそうよねえ。

龍崎 じゃあ、僕はそろそろ。

清水 あ、すみません。

龍崎 じゃあまた明日。

望月 はい。お疲れ様です。

清水 おやすみなさい。

龍崎 去る。

望月 あー姉ちゃん、今日はごめん。

清水 私はいいけどさ、近いし。でも、あんまり親に心配かけないですよ。お父さん、いつも晋也はちゃんと一人暮らしできてるのか」って言ってるわよ。

望月 はいはい。平気だって。父さんは心配しすぎなんだよ。

清水 ……まあいいわ。会社、大変そうね。

望月 まあね。仕事がなくなっちゃうわけじゃないとは思いますが。

清水 だといいいけど。で、売れる新作を考えてるってわけか。

望月 なかなか難しいよ。これは新しいぞ！面白そうだぞ！って思ってもだいたいたい似たようなのが先に作られてるんだよなあ。ひらめいた瞬間は俺、天才って思うんだけど。

清水 あはは。

すぐに龍崎 焦って戻ってくる。

龍崎 シン！彩乃さん！

望月 どうしたんですか？

チヒ口遅れて入ってくる。裸足。薄手のブラウス1枚。

チヒロ

こんばんは。

望月

え？え？

龍崎

な、な。

チヒロ

な？

龍崎

その人で、路地が倒れてるって思ったんだよ。

チヒロ

路地は倒れていませんよ。

龍崎

倒れてただろう！ん？

チヒロ

倒れる……倒れる……。

龍崎

あああ、こまけえことはいいんだよ。んでな、大丈夫ですか？って声かけたら

望月

龍崎さん、ついに犯罪者に？

龍崎

アホ言え！話は通じないし。ついてくるし。

チヒロ

話、通じますよ。

望月

落ち着いてください。

チヒロ

はい。落ち着きます。

龍崎

な、な。

チヒロ

な？

清水

チヒロに上着をかけてあげてとにかく、どこか落ち着いて話のできるところへ行きましよう。

望月

あ、ああ、うん。わかった。

▽第4場

横浜市街。昼。人工知能研究所のメンバがチヒロを搜索している。

武藤 スマホインカメラで はいチーズ。

河合 なにやってるの？

武藤 私、横浜来るの初めてなんです。

河合 いや、そうじゃなくてさ。緊張感！

武藤 しかも河合さんとお出かけ！テンションあがるじゃないですか。ほら、笑顔笑顔。
河合 はあ……。コンピュータ触ってる時には頼りになるんだけどなあ。

武藤、ベンチに座る。

武藤 みつかりませんね。

河合 正直ちょっと疲れたな。追跡コードを替えられるとはね。

武藤 ですね。しらみつぶして口で言うのは簡単なんですけど。

河合 こっちの研究所の義体はなくなっていた。

武藤 はい。

河合 わかったのはそれだけ。

武藤 です。

河合 どうやってセキュリティを突破したのか、どこへ行ったのか。どこかへ運ばれたのか、

自分で電車にでも乗ったか。

武藤 二人で搜索なんて無理ですよ。私達、警察じゃないんですから。

河合 まあね。

武藤 どうしましょうか。

河合 ……。

武藤 電車にでも乗られたらお手上げですって。横浜駅って6社11路線乗り入れてるらしいですよ。

河合 ふう……。雲をつかむような話だな。

武藤 全くです。こんなことになるなんて。

武藤、立ち上がる。

武藤 あ、私、飲み物買ってきますね。

河合 はいはい。俺のも頼む。

武藤 ドクターペッパーでいいですか？

河合　　なんでだよ。

武藤　　えへへ。ポーズをとって）選ばれし者の知的炭酸飲料。

河合　　何言ってるんだか。お茶で。

武藤　　はーい。

武藤、出て行く。

河合　　チヒロがネットワークに繋がるのを待つしかないか。

河合の電話が鳴る。

河合　　研究所か。はい。河合です……。はい、みつかっていません。足取りも掴めません。もちろん周辺の駅やお店では聞いてみたのですが……。はい。

武藤、戻って来る。

河合　　わかりました。では。電話を切る。

武藤　　千田さんですか？

河合　　ああ。今日は一度戻って。

武藤　　了解しましたー。あ、ちょっとブックオフ寄っていいです？

河合　　仕事中だろ？

武藤　　なーに言ってるんですか私は学生ですよ。

河合　　ああ、そっか。涼ちゃんなじみ過ぎなんだよ。何か欲しいものあるの？

武藤　　ポケットときめきクエスト」です。

河合　　ゲームかあ。あれ、もう中古出まわってるんだ。

武藤　　あつという間です。アマゾンの星の数もイマイチでしたし、値崩れ早かったですよ。へえ。つまらないってわかってて買うの？

武藤　　はい。他人の評価ばかり気にしてたら自分に合うゲームなんて見つかりませんよ。変なの。っていうか、涼ちゃんってホント、ゲーム好きだよなあ。

武藤　　私、子供の頃、ゲーム作る人になりたかったんですよ。

河合　　ふーん。

武藤　　ゲームの中に一方通行のドアあるじゃないですか。

河合　　ドアを開けて、一歩進んで、振り向いたら壁になってるドア。

武藤　　そうそう。それです！すごくないですか？初めて見た時は衝撃的で！

河合　　はあ？

武藤　　だって、そんなドア、物理的に作れないんですよ。物理的に。

河合

そりやまあねえ。

武藤

でも、ゲームの中の表現って自由で、どんな世界でも作れるんです。あの小さなソフトの中には無限の可能性が広がってるんですよー。

河合

なるほど。涼ちゃん筋金入りだねえ。

武藤

えへへへ。

河合

あれ？ちょっと待てよ。こないだはアイドルになりたかったんですよーとか言っけな

かったっけ？

武藤

細かいことはいいんですよ。

河合

ヘッドフォンして変な歌、歌ってたような……。

武藤

先走りますよー。

河合

おいおい。

▽第5場

望月の部屋。龍崎、古賀がいる。

龍崎 あの子は？

望月 隣の部屋です。要領を得ないって言うか、なんていうか。ぼーっとしてます。
龍崎 で、どうすんだよ？

古賀 どうしましょう。

望月 どうしましょう。

古賀 先輩、ついに……。

龍崎 ちがああう、違うって！現行犯逮捕！みたいな目で俺を見るな！って、まじめな話、
やばくねえか？夜の街を歩いていたら半裸の女性が倒れていたの助けました。ここ
まではいいよな。

望月 うんうん。

龍崎 何で警察に届けねえんだよ。

古賀 望月先輩、やっぱり……。

望月 ちがああう、違うって！共犯者発見！みたいな目で僕を見ないで！

龍崎 じゃあ何故？

望月 えーっと、話すと長くなるんですけど……、そもそも名前もわからなくて。それでま
ず、警察に行こうとしたらあの子、びっくりするほど嫌がったんですよ。一応「警察」っ
て言葉はわかってるみたいなんですけど。

龍崎 ふむ……。

望月 さんざん説得はしたんですが、泣きわめく女の子の手え引っ張って無理矢理連れてつ
たら逆にそれはそれでやばくないすか？

龍崎 まあな。

望月 それで、ですね……。

龍崎 ん？

古賀 やっちゃった？

龍崎 杏賀を軽くはたいて。うるせえ。

望月 姉ちゃんが言うのには……、なんとというか、あの子、人間じゃないんじゃないかって。

古賀 へ？

望月 姉ちゃんが服とか、着替えさせてたじゃないですか。それで。

龍崎 どういうことだ？鱗がびっしりとか？

古賀 ぎゃああああ、想像したら……。

望月 人工知能なんじゃないかって。AI。

龍崎 えええ？

古賀 ホントに？

望月 ……うん。

古賀 ちよっと待った。それを言うならAI搭載のアンドロイドじゃなくてです？

望月 確かに。

龍崎 こまけえこた良いんだよ。

古賀 あー、まあ。どっちを主体に考えるかですかね。

望月 あ、すみません。話がそれました。でも、普通じゃないってのは注意深く肌見たり触ったりしたらわかるかもしれません。

龍崎 ふむふむ……。

古賀 あ、先輩、触りに行こうって思ってるでしょ。肌。

望月 で、結局その後は、わざわざ警察に行くのはやめようって話になって。

古賀 人じゃないからってことっすか。

望月 うん、まあ。そうなんだけど、まあ、二人で話し合っつて。後は、なんとなくほっとけなくて。

龍崎 今日、彩乃さんは？

望月 わからないです。ああみえて忙しそう。今日は来ないんじゃないですかね？LINEしてみます？

龍崎 あーいいいい。まあ話はわかった。で、どうすんだよ？

望月 どうしましょう。ウチに置いておくのは構わないんですが、親っていうか保護者っていうか、あの子がいなくなつて困ってる人がいるんじゃないかなあつて。

龍崎 湯島に見てもらったら？

古賀 湯島さんかあ。

望月 確かに。詳しそうですね。

龍崎 なんかつ昔、そーゆーのやってたらしい。

古賀 そーゆーの？

龍崎 人工知能。

チヒロ、入って来る。

チヒロ こんにちは。

望月 あ、ごめんな。気になっちゃった？

チヒロ、望月のそばに行く 膝の上に座る

龍崎 ひゃあーなついでるなあ……。

チヒロ

なついでる？

古賀

この人のこと好きなの？

チヒロ

はい。大好きです。

望月

ずっとこんな調子なんです。

古賀

僕、望月先輩のこと嫌いになりました。

望月

おいおい。

龍崎

俺も。

▽第6場

数日後。ゲーム制作会社SHI-GA。チヒロが椅子に座ってる。

湯島

AIですね。

岸

本当に？

龍崎

じゃあこの体は？

湯島

義体です。聞いたことありませんか？生体工学とロボット工学技術の結晶です。

古賀

SF映画やアニメでなら……。

湯島

確かに、この頭脳ほど義体側の技術は進んでいないようね。

古賀

なるほど。

湯島

ここが外部端子のようね。

湯島、ケーブルをチヒロの背中に刺す。

チヒロ

きゃっ！

龍崎

大丈夫なのか？

湯島

あなた、スマホをWiFiに繋げる時にも心配しながらやってるの？

古賀

はい！ドライヤーのコンセントもドキドキしながら繋げてます！

湯島

無視して。繋がれた先のPC画面を見ながら（これは……。

望月

これは？

湯島

かなり高度なシステムね。OSはUNIX系のようだけど……見たこともないコマンド

群だわ。

チヒロ

私は変な気持ちです。

湯島

あれ？ちよっと待って。

龍崎

どうした？

湯島、すごい勢いでキーボードを叩く。

チヒロ

なんだか眠くなってきました……。

チヒロ、停止する。

湯島

これで良し。

望月

動かなくなっちゃいましたけど。

湯島

重要なサービスがいくつか立ち上がっていませんでした。

古賀 えっと……？

望月 そのバグを直したってこと？

龍崎 再起動中か。

湯島 そう。

岸 そんなことができるの？

湯島 ええ。こういうシステムって普通は嚴重なセキュリティに守られているものなんです
が……。この義体は……試作機なのかもしれません。

岸 試作機。なるほどね。

チヒロ、動き出す。

チヒロ こんにちは。チヒロです。迷惑かけてごめんなさい。

古賀 動いた！

望月 チヒロ？

チヒロ 望月に駆け寄って！シン君！

望月 え？

チヒロ シン君ありがとう。大好き。

龍崎 おうおう、やっぱなついてるなあ。

チヒロ あ、ごめんなさい。

龍崎 えっと、名前？チヒロって。

チヒロ はい。チヒロです。

望月 それにしても別人みたい、だよね。

チヒロ 自分でもあれ？おかしいなって思ってたんだけど、どうすることもできなかったの。
恥ずかしいです。湯島さん、治してくれてありがとう。

湯島 感情制御サービスと知識インデックスサービスを立ち上げたわ。で、どうして私の名
前を？

チヒロ 湯島さんのかなって机に郵便物があったから。それに、キーボードを打つ時、SとD、
S、H、Iなど、自分の名前に使うアルファベットの繋がりがちよつとだけスムーズ
に連携されていたし。

龍崎 すこいな。

チヒロ 龍崎 光さん！こないだは、ありがとうございました。

龍崎 お、おう。俺の名前もわかるの？

チヒロ 今、このオフィスのローカルネットワークに接続しました。それぞれを指さして

望月 晋也さん。古賀 三四郎さんに岸 直美さん。

岸 なるほど。よろしくね。でも、自己紹介の前に聞きたいことが山ほどあるわ。

チヒロ

はい。どうぞ。

岸

あなたは、その……AIなのね？

チヒロ

はい。

岸

どこから来たの？どうして道端に倒れていたの？

龍崎、望月うなずく。

チヒロ

それは……わかりません。

湯島

経験や知識を保存するプログラムに一部不具合があったのかしらね。記憶野と思われる領域がスカスカだったわ。

チヒロ

はい。ごめんなさい。チヒロ、スカスカです。どうしてここにいるんだろう。

岸

さすが人工知能研究の元第一人者ね。湯島さん。

望月

え？そうなんですか？

湯島

学生時代の話よ。

岸

チヒロさん……、あなた、感情があるの？

チヒロ

はい。

一同驚く。

岸

本当に？感情よ。わかる？

湯島

感情があるように振舞うだけではなくて？

古賀

どういうことですか？

湯島

感情をプログラミングすることは難しいのよ。現在の技術では……そうね、ペッ

古賀

パーってロボットあるでしょう？

湯島

携帯電話ショップや車のディーラーなんかに置いてある、アレですか？

古賀

そう。ペッパーはね笑顔がわかるの。

古賀

笑顔が？

望月

笑顔かそうじゃないかは最近のデジカメでも判別してるだろ。

古賀

あ、そっか。聞いたことあります。

湯島

笑顔を認識してその人がプラスの感情を抱いているんだなって理解して、うれしい」

古賀

楽しい」とタグ付けされた言葉をより多く選んで話すようになってるのよ。

古賀

なるほど

湯島

彼らは、本質的に「うれしい」を理解しているというより、プログラムに従っている

古賀

だけなのよ。

古賀

なにやら難しいですね。

湯島 今の技術ではそのパターンを増やしていくことが感情を持っているかのように見せる限界かしらね。

古賀 こんなに感情豊かにしゃべる湯島さん初めて見ましたよ。

望月 ホントだ。

湯島 ……うるさい。

チヒロ 人間が「なぜ感情が沸くのか」をきくと説明できないように、チヒロもうまく説明ができないの。でも、理解しているつもりです。

岸 そう言われると確かに説明は難しいわね。
デジタル保存された無数の感情のスイッチを俯瞰的に感じられるようになってきているみたいね。

湯島 湯島さん、湯島さん、全然わかりません。

古賀 あなた、よくこの会社に入れたわね。

湯島 古賀 三四郎はゲーム戦士っすから。ゲーム作りは無敵なんですけど、それ以外はさっぱりで。かしこさ8くらいつす！

湯島 テレビやパソコンのモニタを虫眼鏡で見たことある？細かい色のついた点が無数に光っているの。それを遠くから見ると境目の無いなめらかな絵に見えるように、感情の情報を一歩引いた視点から「大体悲しい」だな。楽しいと不安が混ざり合っているな」とかそういうメタ的な情報で捉える技術がどこかで開発されたのかもしれないわね。

古賀 む…難しいっす！

龍崎 ほら、あれだ。エッチなビデオのモザイクを目え細めてみるとそれっぽく見えるのと同じって事だ。

古賀 マジっすか！？細めると？

望月 二人とも！

湯島 チヒロをあちこち触り、左手に触れる(あら……?)

電話が鳴り。古賀が取る。

古賀 はい。株式会社SHI-GA 開発室です。あ、お世話になってます……。

岸 ともかく、仕事に戻りましょう。企画の締め切りまで後4日よ。

龍崎・望月・湯島 はい。

▽第7場

チヒロ捜索中の人工知能研究所。千田の部屋。河合入って来る。

河合 失礼します。

千田 どうぞ。

河合 お呼びですか？

千田 作業中悪いわね。

河合 いえ。

千田 武藤さんはどう？

河合 頑張ってくれています。ホント、M2とは思えないくらい優秀ですね。

千田 そう。うまくやってね。

河合 はい。

千田 チヒロ捜索の進捗は？

河合 昼の報告から進展ありません。別のセクションにも応援を要請していますが、海に落ちた針を探すようなもので。

千田 わかってるわよね。あの事故以来、高度なAI、特に人格を持ったAIを開発することは禁止されているわ。チヒロプロジェクトも表向きには凍結したままなの。事が大きくなる前に何としても見つけ出さないと。

河合 もちろんわかってます。すみません。

千田 謝る事はないわ。これは私のミスよ。

河合 そんな、

千田 あ、それでね。ちょっと調べ物をして欲しいの。

河合 調べ物ですか？

千田 退官された内田先生は知ってるわよね。このプロジェクトを創設された。

河合 もちろんです。お会いしたことはありませんが。ただ、おととしに亡くなられたと聞いています。

千田 ええ。

河合 事故の件ですか？

千田 そう。あの時にプロジェクトに関わってた人を洗って欲しいの。

河合 資料室に行けばすぐわかるんじゃないですか？まあ紙ばかりで、見つけ出すのは一苦労でしょうが。

千田 職員と研究室の子だけじゃなくて、外部の業者や自動車メーカー、学部生なんかも出入りしてたわよね。

河合 ああ。なるほど。それは骨が折れそうですね……。

千田 悪いけど、お願いね。人手は借りられるよう総務課に話はつけといたから。

河合

わかりました。

▽第8場

望月の部屋。清水、チヒロがいる。TVの音が聞こえる。

望月 　　ただいま。

清水 　　おかえりなさい。

チヒロ 　　おかえりーシン君。

望月 　　悪かったね。

清水 　　あ、TV消すね。

清水、TVの電源を切る。

清水 　　ずいぶん買いこんできたね。

望月 　　うん。ちよっとね。

清水 　　売れるゲーム」プロのゲームプランニング」ゲーム企画バイブル」

望月 　　我ながら付け焼刃だとは思うんだけどさ。

清水 　　えらいえらい。

チヒロ 　　ゲームの企画？

清水 　　こんなに読めるの？

望月 　　心意気だけは買ってくれよ。ちゃんとした企画書書くのなんて久しぶりなんだよ。

チヒロ、一冊を手に取り。すごい勢いでページをめくる。

チヒロ 　　……。

望月 　　わかるの？

チヒロ 　　……。本を読んでいて返事をしない)

清水 　　読んでる時は聞こえてないのよ。

望月 　　すごい速いな……。

チヒロが読んでいた本から紙が一枚落ちる。チヒロは気づかない。

望月 　　あれ？

清水 　　挟まってたのかな？

望月 　　みたい。

清水 　　なにになに？

望月 　　あなたにできること、あるいはできると夢見ていることがあれば、今すぐ始めなさ

清水
「い。向こう見ずは天才であり、力であり、魔法だ。」
かっかしい！

望月
他には何も。前の持ち主のかな。

清水
かっかしい言葉を挟んだまま古本屋に持ってつちやうのがかっかしい！

望月
あはは。そうだね。

清水
向こう見ずは天才であり、力であり、魔法だ」か……。晋也、向こう見ずなどこ
ろあるからなあ

望月
そう？

清水
急に深刻な顔で。あの子のこと、どうするつもりなの？

望月
うん……。

清水
うんじゃなくて。こないだも言ったじゃない。ちゃんと考えてるの？ウチの人のこと
もあるんだよ。

望月
わかっているよ。けど旦那さんの話とあの子は関係ないだろ？

清水
わかってない。晋也はわかってないよ。

望月
……。

清水
……私はやっぱりイヤよ。人間みたいなAIなんて、正直、気持ち悪い。晋也は平気
なの？人間じゃないんだよ？

望月
……。

清水
それに、いつまでもこのままってわけにはいかないでしょう？

望月
そりゃそうだけど……。

清水
……いいわ、好きになさい。でも必要以上に同情しないで。

望月
……。

チヒロ、本を読み終わり。

チヒロ
お待たせ。

望月
あ、ああ、もう読んじゃったの？

チヒロ
なるほどなるほど。シン君、書きかけの企画書ある？あったら見せてよ。

望月
えーっと、まだ印刷してないけど。

望月、ノートPCを広げる。

チヒロ
うーん……。駄目だね。

望月
え？駄目？

チヒロ
うん。駄目。これじゃ売れないと思うなあ。そうだなあ、シン君はプログラマなんだ
から、「面白いゲーム」じゃなくて「すごいゲーム」を考えた方がいいんじゃない？

望月

すごいゲーム？

チヒロ

昔でいえばファミコンのバッテリーバックアップ搭載カセット。家庭用ゲーム機でセーブができるようになってゲームは大きく変わったよね。他にも、振動するアナログコントローラーや、携帯ゲーム機の通信ケーブル発明されて……。

望月

（遮って）ちよつと待ったちよつと待った。一体どこでそんな学習を……。

清水

あー……留守番してる間、晋也の本棚とゲームでディープラーニングしてたわ。

望月

そういうことか。でも、例えば昔過ぎて客席の若者たちが置いてけぼりになってないかな。

チヒロ

え？なに？

望月

ううん。なんでもない。えーつと、ちよつと話が古過ぎないかな？

チヒロ

最近だと加速度センサーとか？ Wi-Fi スポーツなんて、コントローラーにセンサーをくっつけたからこそできた今までにないゲームだね。ニンテンドースイッチの、HD 振動にも無限の可能性を感じるなあ。

望月

客席をちらっと見てううん。それならギリ通じるハズ。

チヒロ

ん？

望月

いや、こっちの話。

清水

すごいゲームねえ……。

望月

でも、そういう企画じゃないんだよ。

チヒロ

そうなの？

望月

うん。うち、ハードメーカーじゃないからさ。本体作ってないし。なるほど。そっか。

チヒロ

ごめんな。一生懸命考えてくれたのに。

望月

ううん。大丈夫！じゃあさ……。

チヒロ

望月とチヒロ話し込んでいる。

▽第9場

どこか。薄暗いところ。チヒロがいる。声がする。

声
チヒロ
チヒロ

はい。

声
チヒロ
チヒロ

お前は、人間？それとも機械？
どっちでもないよ。チヒロはチヒロだよ。

声
チヒロ
チヒロ

古い時計のように、止まるの？
そりゃあ……きつといつかは。多分。

声
チヒロ
チヒロ

携帯電話のように、新しいチヒロに代わられるの？

声
チヒロ
チヒロ

え？
出来損ないの自動車のように、暴走するの？
そんな。しないよ。チヒロは暴走なんてしない。

声
チヒロ
チヒロ

人間のように、笑うの？
うん。嬉しかったら笑う。あと、おかしい時も。

声
チヒロ
チヒロ

人を好きになるの？
シン君は好きだよ。優しい。

声
チヒロ
チヒロ

繁殖もしないのに。人を好きになるの？
え？

声
チヒロ
チヒロ

自分を増やす必要がないのに。
そう、だね。

声
チヒロ
チヒロ

悲しい？
……うん。

声
チヒロ
チヒロ

人間のように、泣くの？
うん。泣くよ。悲しかったら。泣く。悲しい。

声
チヒロ
チヒロ

人間に似せて造られているだけなのに。
……。

声
チヒロ
チヒロ

偽物。
にせもの？

声
チヒロ
チヒロ

出来損ない。
……やめて。

声
チヒロ
チヒロ

人間の。
やめて！

声
チヒロ
チヒロ

人間ではないのに。

チヒロ

やめて！

声 大勢)

人間にあこがれる。

チヒロ

やめてっば！ 絶叫)

望月が現れる。

望月

チヒロ！

暗転。

▽第10場

SHI-GA 近くの公園。古賀、龍崎入って来る。
チヒロがいる。ぼーっとしていて二人には気づいていない。

古賀 先輩！歩くの早いですよ。

龍崎 ああ、すまんすまん。ってか、お前が遅えんだよ。

古賀 ちよいちよい僕小走りしてますって。

龍崎 これだから田舎もんは。

古賀 いやいや、彼女がいない人って早歩きらしいですよ。

龍崎 は？

古賀 聞いたことありません？

龍崎 ねえよ。そんな話。

古賀 あ、チヒロちゃん。

チヒロ 気付いて！古賀さんに龍崎さん。

龍崎 どしたの？シンに用事？

チヒロ ううん。お留守番飽きたから。お散歩。

龍崎 そっか。家すぐそこだもんな。会社人中、入ってくればいいのに。外寒くない？

古賀 そうですよ。あ、でも寒いとか関係ないか。

チヒロ ありがと。二人は？

古賀 ちょっと遅いお昼ごはんっす。その帰り。ここ近道なんで。

龍崎 お前のボンクラ仕事のせいで遅くなったんだろうが。

チヒロ 面白いゲームを作るために战士们は今日も働いているのですなあ。

古賀 そうそう！战士に休息は無いです！

龍崎 古賀、お前が一番有給消化してるだろ。

古賀 まあまあ。

チヒロ ……。

龍崎 ん？チヒロちゃん、どうかした？

チヒロ え？

龍崎 元気ないよね。なんかあった？シン？彩乃さん？

チヒロ ありがと。

古賀 何でも言うてください。有能でイケメンなゲーム战士们が何とかしますよ！

チヒロ ……あのね、夢を見たの。

古賀 夢？

龍崎 チヒロちゃんも夢見るの？

チヒロ うん。多分。初めてだったから。スリープモードから復帰してびっくりした。
古賀 いやな夢だったの？

チヒロ ちよっと。……チヒロはなんでAIなんだろなって。
龍崎 ん？

チヒロ 人間って……、人間って不完全じゃない？あ、生物学的な話だね。部品の交換はできないでしょう？暑さにも寒さにも弱い。息をしないで死んじゃうし、水がなくなっても同じ。頭ではわかっているけど体はできないことが沢山あって……。

古賀 さすがAIです……。

チヒロ でも、機械は違うでしょ？命は宿ってないけど、ちゃんと目的があって造られてる。

龍崎 大抵は人間より力持ちで、早くて、頭が良くて、壊れたら修理できるの。
なるほど。

チヒロ どっちでもないんだよね。チヒロ。

龍崎・古賀 ……。

チヒロ チヒロはさ、プログラムだから、この体だって壊れたらきつと取り換えられるはず。でも、この体は何かをするためにできてるように思えないんだ。人間に似せてあるだけで。10万馬力！とかだったら良かったのになね 苦笑い

龍崎・古賀 ……。

チヒロ 龍崎さんも古賀さんもシン君も、お姉ちゃんも好き。

古賀 僕もチヒロちゃん好きですよ！

チヒロ でも、お姉ちゃんはチヒロのこと嫌いみたい。

龍崎 ……なんだかんだ言って人間は人間が一番好きなんだよ。

古賀 先輩！

龍崎 人間は人間を殺せないけど、他の生き物は平気で殺すだろ。

古賀 僕は殺せませんよ！虫も殺せません！

龍崎 ゴキブリだったら？

古賀 逃げます！

龍崎 はあ……。

チヒロ どうしてチヒロはここにいるのかな？思い出せたらいいのに。チヒロ、役に立たないな。

古賀 どうしてここににいるのか、ですか……。

チヒロ あーなんかごめんね。二人から「同情」の感情があふれてる。

古賀 理由なんてないんですよ！

龍崎 うん。俺もそう思う。俺も古賀もチヒロちゃんも、別になんか特別な意味があって生きてるわけじゃねえんだよ。

チヒロ ……。

龍崎 　ただ、いるの。生きてるの。それだけ。

古賀 　先輩、かっこいいっす！

龍崎 　みんな生きてる意味を作るために生きてるんじゃないの？。

古賀 　キザっすね！キザかっこいい！名探偵なコナン君か花輪君ぐらい！

龍崎 　KZKE。

チヒロ 　え？

龍崎 　(K)キ(Z)ザ(K)かっこ(E)いい。

古賀 　最後、アルファベットのEなのがポイントですね。

チヒロ 　あはは。すごい！なるほど。

古賀 　あ、笑った。

チヒロ 　うん。あはは、ありがとう。

龍崎 　よし、古賀、会社戻るぞ。チヒロちゃんもおいでよ。

チヒロ 　いいの？

大丈夫大丈夫。社長だっていつでもおいでって言ったじゃないですか。

龍崎 　こないだみたいにデバッグ手伝ってよ。

古賀 　望月先輩もいますしね。

チヒロ 　うん！

外、夜。望月、清水がいるところに湯島が入ってくる。

望月

湯島さん、こっちはです。

湯島

お待ちませ。

清水

お呼び立てしてすみません。

湯島

で、話って？

望月

チヒロの事、少し教えてもらおうかと思って。

清水

あ、すみません。晋也の姉です。清水と申します。私がお願いしたんです。

湯島

そうですね。はじめまして。

清水

湯島さんって、AIの研究されてましたよね。論文もいくつか拝見しました。素晴ら

湯島

しかったです。

湯島

……そう。昔の話よ。

清水

でも、ある日突然湯島さんが所属していた研究チームは解散。

湯島

……。

清水

事故、ですか？

望月

おい、姉ちゃん。

清水

自動車を運転するAIの実証実験中、突然の暴走、そして死者1名。湯島さんのお名

望月

前は出ていませんが、研究チームの解散と時期がぴったり一致します。

湯島

姉ちゃん！話がちがうじゃないか！

湯島

いいのよ。

清水

ごめんなさい。失礼な話だったことはわかってます……。

湯島

……何年前になるのかしらね。私は学生時代から人工知能の研究に没頭してたわ。

清水

内田研究室、ですよね。

湯島

ええ、先生は当時から人工知能研究の最先端を走っていたわ。例の事故が起きるまで

望月

は。あなたのおっしゃる通り、あれは私のチームが起こした事故よ。

望月

そんな……。

湯島

大きなニュースにもなったし、どんな事故だったかは、お二人も良くご存じでしょ

望月

う？

望月

ええ、まあ。

湯島

世論に負けて、ただちに研究は凍結。私に残った仕事は後片付けだけ。それ以上大学

湯島

に残る意味もなくなって、途方に暮れて。就職先を探しているところを岸社長に拾っ

清水

てもらったの。どうしてそんなことを？

清水

私は、湯島さんのお考えとは違うかもしれませんが、私は人工知能がこれ以上発達す

ることに反対なんです。人格を持つなんて、早すぎると思うんです。チヒロは確かに見た目には無害そうで、かわいらしい女の子です。でも、いつ暴走して大変な事になるかわからないじゃないですか。心配すぎだよ。

望月

彼女が何を考えてるかなんてわからないでしょう？

望月

そんな人間だって。

清水

人間とAIは違うのよ。

望月

何が違うの？

清水

違うじゃない……。

望月

明るくて近所づきあいのできる良い人でした、こんな事件を起こすなんて」ってニュースで聞いたことない？ 人間だって同じだろう？

清水

そんなんじゃない。

望月

姉ちゃんはAIを恨んでるだけなんだよ。

清水

恨んでなんかいないわよ。

望月

じゃあ何？

清水

……。

望月

目の前に困ってる子がいて、助きたい。それだけだよ。

清水

そんなこと言ってるんじゃない。

望月

身元が確かな人なら助けるけど、知らない人は見て見ぬふり？ かわいい子猫だったら助けるけどかわいくない生き物だったら見殺しにすること？何が違うのさ。見た目？育ち？

清水

……。

望月

ごめん……もうこの話、やめよう……。湯島に)あの……。

湯島

なに？

清水

亡くなったの、私の夫なんです。

湯島

え？

清水

夫は、交通事故で。仕事の帰りに無人の車にはねられて亡くなりました。事故の知らせを聞いて急いで病院に向かいましたが、もう……。

湯島

そう、だったの……。

清水

あ、すみません。湯島さんに謝って欲しいとかそういうんじゃないんです。作ったのは自動車メーカーと東都大学ですしね、それももう12年も前のことです……。

湯島

……。

清水

あの事故で日本のAI研究は10年は遅れたってテレビで言っていました。それなのにあの子がいる。日本語を話すアンドロイドがどこかで作られてるってことじゃないですか。

湯島 あれだけの成果を白紙にしてしまうことに、どこから強い反対があったのかもしれないわね。

清水 湯島さんは何かご存じなんですか？

湯島 いいえ。会社で彼女の中をのぞいたけど、基本的な部分しかわからなかったわ。浅いところだけ。

清水 そうですか……。

湯島 期待に添えなくてごめんなさいね。

清水 いえ。

望月 すみません。なんか、こんな話になっちゃって。

湯島 あの……、私こそ、その……、

望月 じゃあ、僕らこれで失礼します。

清水 そうね、お時間いただきありがとうございます。

湯島 え、ええ。

望月 去りながら(姉ちゃん、行こう。

清水、望月去る。

暗転

翌日。SHI-GA。湯島が帰ろうとしているところに岸がやってくる。深夜。

岸 お疲れ様。

湯島 あ、岸さん。

岸 ずいぶん遅くまで頑張ってたのね。

湯島 岸さんこそ。今日はお戻りにならないと思ってました。

岸 そのつもりだったんだけど……ね。

湯島 ええ……。

岸 終電、もう無いんじゃないの？

湯島 今日はタクシーで帰ります。

岸 ごめんね。

湯島 私こそ、あまりお役に立ててなくて。

岸 そういえば企画書お願いしたのなんて初めてかしら？

湯島 ええ。すみません。

問

岸 何か、あったの？

湯島 え？

岸 そんな顔してるわ。

湯島 ……かなわないなあ。

岸 私で良ければ話、聞くわよ。

沈黙。湯島を優しく待つ岸。

湯島 岸さん……私……。

岸 うん？

湯島 本当に岸さんには感謝してて……。

岸 あら、水くさいわね。

湯島 あの頃……見失ってたんです。

岸 ……。

湯島 寝食を忘れるほど打ちこんでいた研究が急に棚上げになって……。

岸 そうだったわね。

湯島 いや、そんなことより、社会を幸せにするものを作ってるって私、信じてたんです。
岸 ……

湯島 でも、そうじゃなかったのかもしれないって。…私は、私は、
岸 ゲームだって同じじゃないかな。

湯島 え？

岸 ゲームなんて全然世の中の役に立たないでしょう？

湯島 でも、誰かを笑顔にするじゃないですか。

岸 そうね。でも、不幸になってしまいう人もきつといるわ。

湯島 ……

岸 夢中になりすぎて人生を少しだけ狂わせてしまいう人、出会ったことないかしら。

湯島 ええ……

岸 そんな人のご家族はどう感じられるのかしらね。

湯島、うつむく。

岸 ごめんなさい。腰折っちゃった。

湯島 いえ……。私、きつと考えないようにしようとしてるんだと思います。ずるいんです。
岸 そんなことないわよ。

悲しい思いをしてる人がいたのに。本当はそれに気付いていたのに。

……

私にできることはもっとあったのに！

湯島さん。

だって私は！！

あなたは充分に苦しんだわ。

……

もう、いいのよ。

岸さん……

あなただけがそんなに泣かなくていいのよ。

問

湯島 ……あの時と同じですね。

岸 あの時？

湯島 岸さん、また私を助けてくれました。

岸 そうかしら。

湯島 仕事でもっと恩返ししないと。

湯 岸
島

あはは、水くさいのね。

…もう、後悔はしたくないんです。

▽第12場

人工知能研究所オフィス。チヒロの捜索を続けている。

河合 見つかりません。

千田 ふう……。

武藤 行方不明。

千田 手がかりゼロ。

河合 横浜って意外と広いんですね。

千田 ちょっと休憩しましょうか。

武藤 あ、お茶入れますね。

千田 私が行くわ。武藤さんは休んで。

河合 あ。

千田 河合君も。

河合 すみません。

千田 出て行く。

河合 涼ちゃん、寝てないんじゃないの？

武藤 平気です。私、河合さんのお役に立てるなら後48時間は働けます。

河合 それはすごい。

武藤 あ、ウソだと思ってますね。

河合 うん。今にも寝そうだよ。

武藤 むー……。あー、あの……河合さん。

河合 ん？

武藤 所長はどうしてチヒロを開発しようと思ったんでしょうか？

河合 こりやまた突然。

武藤 あ、いえ、その……。

河合 「大工知能の反乱」

武藤 ……。

河合 少し前にニュースになってたよね。AI自らが進化できるステップが来た時に、彼らが私達人類のような目標を持っているかは確認することができない」

武藤 はい。

河合 AIやロボットが人類に対して害なす存在になるSE作品はごまんとある。遠い昔にはロボット三原則とかね。

武藤 ですね……。

千田入って来る。

千田 映画？ターミネーター？

河合 あ、所長。

千田 あら？ 武藤さんの心配事、違った？

武藤 えっと、上手く言えないんですが、多分私、怖いんだと思います。

河合 怖い？暴走が、じゃなくて？

武藤 **TV**が人類に敵対したら、とか、戦争の道具として使われたら、とか、そういう話はもちろんなんですが、それよりもっと身近な、ぼんやりとした怖さなんです。

河合 というと？

武藤 チヒロって何なんだろう。人間、というか私ってなんなんだろうって。

千田 なるほど、難しいわね。

武藤、突然 視界の端にあるPCに駆け寄る。

武藤 見つけた！チヒロだ！

千田、河合も集まって来る。

千田 どこ？

武藤 場所は……新横浜の辺りですね。西、いや南西かな。それ以上は……。

河合 インターネットか？

武藤 はい。今も繋がっています。この点から半径200m以内です。

千田 ……彼女、逃げている訳じゃないのね。

河合 まさか、畏？

千田 あるいは……。

武藤 どうしましょう？

千田 そうね。河合君は応援を集めて。

河合 はい。

千田 行くわよ。準備して。

武藤 はい。

▽第13場

SHI-GA オフィス。古賀が企画のプレゼンテーションをしている。チヒロ、PCの置かれたデスクに座っている。

古賀 次に、このゲームのキーアイテムである「ベタベタ玉」ですが、これに触れてしまうと、キャラクター達はベタなセリフしか言えなくなってしまう。例えば「あ、雪だー寒いと思った」ですとか、「きゃっ！ひどい熱！」ですとか。えー、他にも「ヤギザ玉」がありまして、こちらは（龍崎のまねで）生きてる意味を作るために生きてるんだよ」ですとか……。

岸、制して。

岸 もういいわ。ありがとう。

古賀 え？あ、はい！

龍崎 これも売れそうにないってことだよ。セリフはかっこいいんだけどな。

湯島 今のが最後？

古賀 はい！すみません！

望月 謝ることないよ。よくこんなにたくさん持ってきたね。

湯島 つまらないものばかりだけど。

チヒロ 湯島さん！

龍崎 まあその根性だけは才能だな。

湯島 古賀を見て。そうね。

古賀 ありがとうございます！

岸 書類と社員全員に目をやりながら）さて、これで全部ね。

龍崎 はい。

岸 龍崎君の「その雪印マークの下で5人が踊っているのだという。」が一番マシな内容かしらね。

古賀 どこかで聞いたことあるようなタイトルですね。

岸 でも、私はこれが売れるっていう確信を持つには至らないわ。みんなはどう思う？

一同無言。

岸 困ったわね、このままじゃ、

龍崎 会社は解散、ですよね。

古賀 そんなあー

望月

でも、悪くはないんじゃないですかね？

岸

望月君はこれが売れるゲームになると思う？

望月

うーん、一定層には訴えるものがあるんじゃないかと。

龍崎

気が使わなくて良いんだよ。俺だって会心の一作たあ思っていないんだから。

チヒロ

あー……。

古賀

どうしたの？

チヒロ

ううん。

岸

企画書にはなっていないけど、良いアイデアがあるって人はいる？

古賀が手をあげるが一同ちらっと見て落胆。

古賀

えー。どういうことっすか！

龍崎

お前のは、面白いとか売れるとか以前の問題でだな、

湯島

センスが無いの。

古賀

そりやないですよー

突如、人工知能研究所のメンバがなだれ込んでくる。

千田

見つけたわ！チヒロね？

武藤

スマホの画面を見ながら）はい。確かにここから発信されています。

岸

な、なんなの？

チヒロ

誰？……え？

千田

おとなしくその子を返していただけますか？

河合

建物の全ての出入り口はおさえてあります。逃げようとしても無駄ですよ。

岸

あなた達は？

千田

チヒロの持ち主です。

古賀

持ち主？

千田

ええ。さあ、帰るわよ。チヒロ。

龍崎

待て待て待て。いきなり人の会社に踏み込んできてそれかよ。礼儀がなってねーだろ。

（前に出て）正義のビームくらわせるぜ？

チヒロ

龍崎さん。

河合

失礼しました。我々は暴力で解決するつもりで来たものではありません。

武藤

Wow Wow セーいぎのーびーむをーん」

龍崎

！！

突然音楽が流れ、武藤、龍崎踊りだす。武藤完コピ。龍崎オタ芸&MIX。周りも掛け声であ

わせる。

武藤・龍崎 Yeah Yeah くーらわーせろー♪」 決めポーズ)

龍崎 貴様、できるな？

武藤 お主も。

固い握手。一同拍手。しかし、はっと気づき両陣営に後ずさる。

河合 と、とにかく、チヒロは返してもらいます。

望月 急にそんなこと言われても。

古賀 そうですよ。まずは事情を説明してくださいよ。

無視し、千田が湯島を引っ張って連れ出そうとする。

湯島 きゃー！！

千田 おとなしくしなさい。帰るのよ！

望月・古賀・岸 湯島さん！

龍崎 同時に) 湯島！

千田 え？

湯島 私はチヒロじゃありません。

千田 え？

千田、河合で湯島の靴を脱がそうとする。片方だけ脱げ、遠くへ。

チヒロ 私！私がチヒロよ。

武藤 チヒロにスマホをかざし(頷く)すみません。私達、まだできあがった義体見たことなかったんで。

河合 さあ、帰ろう。

岸 待ってください。状況は少しだけ理解しました。私は責任者の岸と申します。

武藤 岸プロデューサーだ！ポケットときめきクエスト面白かったです！「ローガー♪」

河合 涼ちゃん。黙って。

岸 ありがとう。

武藤 ブックオフでもオススメってポップ貼っててありましたよ！

古賀 中古じゃ僕たちには一銭も入りませんけどね！

岸 チヒロの持ち主とおっしゃいましたが、本当ですか？

千田 ええ。チヒロ、あなたは私達の作った人工知能です。その体は初めてでしょうけれど、

どちらも重要な国家機密です。

チヒロ　　そうなんですか……。チヒロ、全然覚えていなくて。なにも。ごめんなさい。
河合　　過去記憶が読み込めなくなっているのか。
龍崎　　ちよっと待った！

皆、龍崎に注目。

龍崎　　ってことはあんた達にチヒロの持ち主……証拠は無いってわけだ。

千田　　足の裏。

龍崎　　え？

千田　　我々の義体なら、その足の裏に証拠があるわ。

チヒロ　　え？私の？

チヒロ、靴と靴下を脱ぎはじめる。

岸　　足の裏に？

古賀　　どうということっすか？

千田　　見ればわかるわ。

脱ぎ終わり、足裏にマジックで「大工知能研究所」と書いてある。汚い字。

古賀　　マジックかよ！なんかこう最先端の！ほら、マイクロチップとか、せめて非接触型
「タグ！じゃじゃーんみたいなの！

千田　　わかっていただけでしたかしら。我々は国立人工知能研究所の職員です。チヒロは、盗ま
れたの。

俺たちは盗んじやいねーぞ！

千田　　晃回して……確かにそのようね。

岸　　お宅の管理がなってない人工知能さんが人様の会社にやっつけてきて迷惑を掛けてるっ
て可能性は考えなかったのですか？

河合　　……それは……。

チヒロ、迷惑だった？

龍崎　　いやいや、そういう意味じゃないって。チヒロが 迷惑なわけないだろう。

千田　　私達の勘違いだったようですね。大変失礼しました。チヒロは責任をもって回収致し
ます。なにかありましたらこちらまでお知らせください。誠意を持って対応いたしま
す。(各刺を渡す)

岸　　……千田さん、ね。

望月　チヒロ、連れていっちゃうんですか？
チヒロ　シン君。

望月　チヒロがあなた達のものだったのは分かりました。でも……。えっと、もう会えないんですか？

千田　そうね。悪いけど、忘れてちょうだい。

龍崎　その、名刺の場所に行きやあいるんだろ？

千田　名刺の住所はヘッドオフィス。ラボの場所は残念ながら教えることができません。

望月　そうですか……。

河合　すまん。チヒロ、行こう。

チヒロ　はい……。

武藤　大丈夫。ちゃんと思い出せるよ。

龍崎　靴。

河合　え？

龍崎　靴くらい返してやれよ。

河合　あ、ああ、悪かったね。

河合、靴を拾って湯島に渡す。千田、チヒロを連れて出て行こうとする。

湯島　ありがとう。

千田　それでは。失礼します。

望月、少し追う。千田、立ち止まる。

望月　チヒロ、ありがとう。またいつかどこかで。

チヒロ　うん。シン君も元気だね。

望月　ごめんな。

チヒロ　あはは、謝らないで。

チヒロ、千田に連れられて出て行く。

望月の部屋。望月、携帯機でゲームをしている。

清水

まーだやってるの。明日も早いんでしょ？

望月

あーうん。姉ちゃん、対戦しようぜ。

清水

私そろそろ帰るわよ。

望月

相手がコンピ ユータだとさイマイチ盛り上がらないんだよ。

清水

そういうもん？

望月

燃えないというか。なんていうか。弱すぎるとつまらないなああってなるし、強すぎて

もハイハイって感じになっちゃう。対人戦ってさ予想できない動きって言うか……。

どうしたの？

清水

ゲーム閉じて ああ、うん。なんでもないよ。

望月

……。

望月

……。

望月

チヒロ、どうしてるかな。

清水

……気になっちゃう？

望月

うん。

清水

きっと幸せにしてるわよ。

望月

あの人たち、専門家だしね。

清水

罪悪感。

望月

だと思っ。

清水

彼女はあるべき場所に帰ったのよ。

望月

記憶も取り戻してるのかな。

清水

そうね。もう忘れなさい。

望月

……。

清水

拾った子犬を里親に出した後みたいね。

望月

そんな風に言うなよ。

清水

落ちすぎだよ、晋也にはもっと大事なことがあるでしょう？

望月

大事なこと？ああ、

清水

さっき言ってたじゃない、仕事、大変だって。新作？

望月

うん。アイデアから仕様を肉付けしてるとこなんだけどさ。

清水

がんばりなさいよ。

望月

まあ、ね。

清水

なんだっけ？ その無印良品の下の階で五人は佃煮を売っているという。」だっけ？

望月

あー……。まあ大体そんな感じ。

清水

変なの。

望月

龍崎先輩、いっつもタイトルつけたがる割にセンス微妙なんだよなあ。

清水

あはは、で、肝心の中身は？面白いの？

望月

最初はイマイチかなって思ったけど、煮詰めて行くうちにだんだん手ごたえ感じてきたよ。万人受けはしないかもしれないけど、なかなかいい感じ。

清水

よかったじゃないの。

望月

まあ、ね。

清水

もう、さつきから生返事ばかり……。じゃあ私も帰るから。明日は燃えるゴミだからね。忘れないでよ。

望月

うん、ありがとう。気をつけて。

清水

はいはい。

▽第15場

人工知能研究所。停止しているチヒロ。周りで河合と武藤がPCをいじっている。
千田、入って来る。

千田 コードは見つかりそう？

河合 すみません、まだです。コピーシミュレータに色々なパターンデータを流してみても
さっぱりで。

武藤 ここ2週間でざっと5,000通りは試しましたが、異常は見つかりませんでした。
仕掛けは無いってこと？

河合 わかりません。めぼしい箇所はあらかじめ調べたのですが。
そう……。侵入された時のログデータは復旧できた？

千田 いいえ。綺麗に消されています。もしくは最初からロギングされていないか。フォレ
ンジックチームに依頼していますが、そっちも芳しくないようです。

武藤 何も残っていない……お手上げです。
難しいのはわかってる。でも、コードがみつからない限り、チヒロはずっとスリープ

千田 モードのまま。再起動はさせられない。
また出て行かれちゃいますもんね。

河合 やはり、チヒロのバグってことはないんですか？
いいえ。チヒロは盗まれた。いや、逃がされたの。誰かが外に出るように仕向けたの

千田 よ。その痕跡は必ずあるはず。
外からのハッキングに対する守りは完璧。でもその裏をかかれた。

武藤 作業を続けて。
河合・武藤 はい。

▽第16場

SHI-GA。岸と龍崎が書類を持って話している。湯島はPCに向かい、望月と古賀が話している。

岸 これじゃ間に合わないわ。予算もオーバーする。

龍崎 それはそうなんですけど……。

岸 とにかく、これじゃダメ。別のフィーチャー考えて。

電話が鳴る。

古賀 はい、株式会社 SHI-GA 開発室です。あ、はい。いつもお世話になってます。岸で

すか、少々お待ちくださいませ。社長、

岸 KIN-KI?

古賀 はい……。

岸 お電話変わりました岸です。お世話になっております。はい、ええ……。

古賀 電話、こないだの企画の結果ですよ?

望月 プレゼン招集されますかね?

古賀 招集?

湯島 企画書が通れば本社のお偉いさん達の前でプレゼンできるの。そこでOKが出てやっ

と開発を始められるのよ。

古賀 なるほど。

龍崎 あれじゃダメだったかなあ……。

古賀 何弱気なこと言ってるんですか。僕ら一生懸命やったじゃないですか!

湯島 努力と面白さは比例しないの。

古賀 そりゃそうですけど……。

望月 でも、そこそ売れそうな感じには仕上がりましたよね。

古賀 ですよ。期待できますって!

岸 はい。はい。失礼します。

岸、電話を切る。一同、集まって来る?

龍崎 社長。どうだったんですか?

岸 残念ながらボツ。今月中に本社プレゼンに持ち込めるような代わりの企画が出ないよ
うなら、それまで、ね。

一同落胆のため息、しばらくの無言の中、望月の携帯がバイブで震える音。

龍崎 万策尽きましたね。

古賀 諦めないでくださいよ！

龍崎 諦めてちゃいけないけど、

古賀 まだできることはありますって！

龍崎 例えば？

古賀 ……。

無言の中、再度望月の携帯バイブ音。

龍崎 いい加減にしろよ。シン、おい。電源切っとけ。お芝居が始まる前にも言ってたろ？

前説の真似して。携帯電話、時計のアラームなど、音の鳴る機器はあらかじめ電源をお切りください」お前だけだぞ。お客さんみんな あいつはいいのかよ」って思ってるって。

望月 え？

龍崎 いいから切れて。今どんな時かわかってんだろ。

望月 すみません。最近迷惑メールが多くて……あ……チヒロだ。チヒロからだ。

一同、一瞬動きが止まり、すぐに望月の周りに集まる。

龍崎 チヒロちゃん、何て？

古賀 先月だっけ？元気かな。

湯島 IV は風邪ひかないわ。

古賀 ああ、そっか。

望月 企画？え、机？

龍崎 ん？どした？

望月 あ、いや、ここの意味が。机の上」？

湯島 見せて。

望月 机の上なんて何もなかったですし。

湯島 これ、デスクトップのことじゃない？

古賀 ああ、そっか。

湯島 パソコンを開く。

古賀 うわ、湯島先輩、アイコンごっちゃごちゃっすね。

湯島

うるさい。

龍崎

ホントだ、こりゃひどい。

湯島

特に変わったことはありませんね……あの時……、岸さんのパソコンは？

岸

私の？

湯島

ええ、ちょっと見てもらっても良いですか？

古賀

わ、こっちはもったごちゃごちゃしてる。

龍崎

ホントだ、こりゃもったひどい。

岸

あら……。これ、ゲームの企画ね。いつの間に。

龍崎・古賀

企画？

皆、集まってPCの画面をのぞき込む。

岸

ええ、ゲームの企画書みたい。うちのフォーマットじゃないけど……これは……すごい！このゲーム、売れるわ！

ストップモーション。音楽。

チヒロ（声）

シン君、チヒロです。ゲーム作りは順調ですか？じゃーん、チヒロも企画書、書いてみました！机の上に置いといたよ。

チヒロ出て来る。

チヒロ

チヒロは今、眠ってます。体は眠ってるけど心は起きてます。あはは。変なの。……チヒロ、やっぱり壊れてたみたいですよ。千田さん達はずっと治そうと頑張ってくれています。けど、難しいみたいです。どこが悪いかわからないみたいで、また暴走しちゃうかもって。多分もうすぐ初期化されて……どうなっちゃうんだろう。わかりません。……あ、シン君、ありがとう。チヒロ、お礼を言いそびれちゃいました。優しくしてくれてありがとう。大好き。お姉ちゃん、ありがとう。チヒロ嫌われちゃったかな。岸さん、龍崎さん、湯島さん、古賀さん、ありがとう。みんなにまた会いたいな。……チヒロはシン君が好きでした。好きです。

チヒロ去る。ストップモーション解除。間。立ち上がる望月。

岸

どこに行くの？

望月

あ、その……。

龍崎

行けよ。このチヒロちゃんの企画書、仕上げたら俺も追いかける。

古賀

龍崎さん。

湯島

そうね……望月君は自分の目で見届けなきゃいけないわね。

龍崎

あなたにできること、あるいはできると夢見ていることがあれば、今すぐ始めなさい。向こう見ずは天才であり、力であり、魔法だ。」

望月

それって……。

龍崎

俺の座右の銘だ。ゲーテの言葉だ。

望月

あは。そういうことだったんですね。

龍崎

何が？

望月

いえ、なんでもありません。ありがとうございます！

岸

千田の名刺を見ながら）でも、どこに行くの？この住所にはチヒロはいないって。

湯島

大丈夫。居場所はわかってる。

古賀

えっ？どうやって？

湯島

あの男の人に発信器仕込んでおいたから。

古賀

いつの間に？

湯島

さあ、靴を返してもらった時かしらね。

岸

で、行ってどうするの？

望月

わかりません。……でも、行かないと。チヒロがいた意味が。ちゃんと意味があったって思わせてあげないと、あいつが！いや、俺が！……。

岸

わかった。はじめをつけてらっしゃい。私も後で行くわ。

古賀

僕も！

湯島

私も……行くわ。

望月

はい！ありがとうございます！

音楽。走り出す望月。短い暗転

望月入って来る。

望月

生きてる意味なんて。

龍崎入って来る。

龍崎

意味を作るために生きてるんだよ。

湯島入って来る。

湯島

自分の目で見届けなさい。

望月

AIでも人間でも。

古賀入って来る。

古賀

僕もチヒロちゃん好きです！

岸入って来る。

岸

はじめをつけてらっしゃい。

望月

チヒロに、言ってやらなきや、俺が覚えてる「
って。

チヒロ入って来る。

チヒロ

チヒロはシン君が好きでした。

龍崎

同時に) 行け！シン！

湯島

同時に) 行け！望月君！

古賀

同時に) 行け！望月先輩！

岸

同時に) 行け！望月君！

望月

おう！

音楽大きくなり、暗転。

▽第17場

人工知能研究所。千田、河合、武藤と清水が対峙している。望月入って来る。

望月 チヒロ！

河合 君は！

武藤 あー、ポケットときめきクエストの人！

千田 今日は千客万来ね。

望月 姉ちゃん！

清水 晋也も来たのね。

武藤 え？きょうだいなの？

千田 何の御用かしら？

望月 会わせてください。チヒロと、話をさせてください。

千田 あはははは。お姉さんはチヒロを殺しに、弟さんはチヒロとお話をしにきたってわけ

ね？

望月 殺しに？

武藤 へんなの。

千田 彼女ならそこよ。

チヒロ、入って来る。無表情。動かない。

望月 チヒロ！

チヒロ ……。

望月 一分だけ、一言だけでもいいんです。話をさせてください。

千田 それはできないわ。

河合 してあげたくてもね。

望月 どういうことですか？

武藤 ときめきクエストさんはお話したいのよね。私達も同じ。チヒロを復帰させたいの。

でも誰かがチヒロを逃がす仕掛けを施しちゃったのよ。誰かが。だからチヒロはス

リープモードのまま。起動させられないの。

あなたのお姉さんがその仕掛けを使ってチヒロを殺そうとしてたのよ。

姉ちゃんが？まさか。

望月 あんたもわかってるでしょう？チヒロはⅣなのよ。殺すんじゃない。ただ、データ

を消すだけ。

望月 待てよ。

清水 あの子は彼を殺したⅣなのよ。

望月

待って。

河合

きょうだい喧嘩ならよそでやってもらえないかな。

望月

チヒロが事故を起こしたわけじゃないだろ。

清水

私はAIが憎い。造られた、人間の真似をして、失敗する機械が憎い。憎いの。あの人が死んで、私がどれだけ苦労したか、毎日毎日マスコミが押し寄せて。あなた達にはわからないのよ！

望月

だからって、チヒロを憎んでも仕方ないだろう？

清水

警察にも、お医者さんにも加害者を恨んじやいけないって言われ続けてきたわ。そんなことはわかってる！でも！相手はAIよ？後悔すらないのよ？

望月

チヒロは、ただチヒロなんだよ。ただ産まれてきただけなんだよ。俺達と何が違うんだよ。

清水

違うわ。あれは、造られたものよ。こんな子がいるから不幸になる人間がいるのよ！

清水、チヒロに取りつこうとするが千田、河合、武藤に止められる。

清水

どうして、どうして。

河合

やめるんだ。落ち付きなさい。

千田

警備を呼んで。

武藤

はい。

清水、河合におさえされて諦める。

清水

失敗しちゃったか……。

望月

姉ちゃん。

千田

チヒロを逃がした侵入者はあなたね。そして、あの事故で亡くなった清水さんの奥様、なのね。

清水

知ってたの？

河合

すごいハッキングだったよ。誰かを雇ったのかあなた自身がやったのかは知らないが、全くお手上げだった。でも、消去されることだけは阻止できた。我々も捨てたものじゃないだろう？

清水

……。

河合

でもあなたは諦めなかった。義体の起動キーを壊そうとチヒロを一旦外に逃がした。チヒロが消せないなら人の形で起動できないようにしようとしてもしたんだろう。義体の場所も調べてあったとはね。

武藤

すごい執念です。一般人には知らされていないはずだったのですが。

河合

起動キーは壊せなかったみたいだね。物理的に破壊する以外は、この研究所のパス

コードデータが必要だからね。

千田 あなたはきっとここに来ると思ったわ。あっさり中に入れておかしと思わなかったの？普段からこんなに警備は手薄じゃないのよ。

清水 全部お見通しだったってことね。

清水 気の毒だけど。

武藤 ゲームオーバー。

望月 どうして。

清水 人格をもったAIを造るなんて、まだ早い。早すぎたのよ。それは、神様の仕事。あの子はまだ生まれちゃいけなかったのよー違う？……違うの？

望月 ……姉ちゃん……ごめん。姉ちゃんの辛さをわかってあげられなくてごめん。

清水 ……。

望月 姉ちゃん、小さな頃からずっと俺のこと助けてくれたじゃん。ホント大事にしてくれたじゃん。二人っきりのきょうだいだからってさ、忙しい母さんの代わりに弁当作ってくれたり、勉強見てくれたりさ。今だって俺、姉ちゃんに頼りっぱなしだよな。

清水 晋也。

望月 旦那さんが亡くなって、どれだけしんどかったか、俺わかってあげられなかったな。

清水 ……。

望月 俺、チヒロが好きだよ！姉ちゃんごめん。大好きな姉ちゃんのこと、苦しめちゃってごめん。……でも、記憶もあいまいで、一人だけ「違う」世界に放り込まれた自分を想像してみてよ……俺、チヒロを独りにしたくないんだよ。

清水 晋也……遅すぎたよ……。遅すぎたのよ……。

〔警報が鳴る。武藤と河合、PCに向かう。〕

武藤 何者かがネットワークに侵入しています。

千田 なんですって？まさか！ 清水を見る

武藤 早い！敵はチヒロを消去しようとしています！

河合 止められません！コード2002、ロックされています。

清水 貸して！

望月 姉ちゃん！

清水、河合のPCに向かい何か操作する。警報が止まる。

武藤 ロック解除を確認！

千田 被害の確認と復旧処理、急いで。

河合 はい。

警報、再度鳴る。

武藤 え？……チヒロが！チヒロの消去が始まりました！

清水 どういうこと？

千田 接続、切り離して！

河合 間に合いません。メインコンピュータのバックアップも消えていきます！

清水 なぜ？

湯島、入って来る。

湯島 もう誰にも止められないわ。

清水 あなたは！

望月 湯島さん！

湯島 私は自分の不始末を片づけてるだけよ。

一同 ！！。

千田 警備は何をしてるの？

湯島 資料室かどこかが火事だとも思ってるんじゃないかしら。

千田 まさか！あなた！

武藤 PCを操作して、チヒロが、消えて行きます。

千田 とめなさい！強制終了！

武藤 やってます！できません！完全に消えるまで後、5分です！

望月 湯島さん！やめてくれ。頼む。

湯島 ごめんなさい。清水さん。私はずっとおびえて生きてきたわ。自分達が造り出したも

ので誰かを不幸にしてみましたことに。

清水 湯島さん。

湯島 望月君、これで良かったのよ。チヒロがヒトとして扱われる時が来るまで、彼女は幸

せになれないの。これで良かったのよ。

望月 そんな……。

河合 やめろ！くそっ！何とかしろ！

千田 あなたは、とんでもないことをしているのよ！

SHI-GA 社員達が飛び込んでくる。

古賀 同時に) 先輩！

龍崎 同時に) 望月！

岸 (ほぼ同時に) 望月君！

望月 みんな！

龍崎 湯島、お前！

望月 (湯島に) お願いだ。止めてくれ。

湯島 もう、私にも止められないのよ。

岸 湯島さん、お願い。チヒロを……、望月君を助けてあげて。

湯島 ……、左手よ。

望月 え？

湯島 薬指の爪を押せばチヒロと話せるはずよ。

望月、チヒロの爪に触れる。照明変わり。世界が二人だけになる。

チヒロ あ、シン君。……会いに来てくれてありがとう。

望月 チヒロ。

チヒロ 会社のみんなは元気？

望月 うん、みんなそばにいるよ。

チヒロ 私、もうすぐ消えちゃうんだね。

望月 俺が、俺が覚えてる。チヒロのこと、忘れない。

チヒロ そんな顔しないで。うれしい。産まれて来てよかった。誰かがちゃん覚えてくれるチヒロに産まれて来て、本当によかった。

望月 チヒロ！

チヒロ あのね、シン君、好きだよ。大好き！

望月 あは、あはは。ありがとう。

チヒロ シン君。

望月 俺も、チヒロが好きだよ。絶対に忘れない。絶対に覚えてる。

チヒロ ありがとう。

望月 こちらこそ、ありがとう。

チヒロ チヒロが生きてきた……証しを……くれて。あり……が……と。

望月 チヒロ！

暗転。

▽第18場

朝。SHI-GA

コンピュータに向き合っている望月。

ゲーム機でデバッグプレイをしている古賀。

電話で話している岸。2場と同じ情景だが、湯島がない。

岸
ええ、はい。……はい。すみません。それは確かにこちらの落ち度ですが……

龍崎入って来る。右手がビニール袋で包まれている。

龍崎
おはよー。

古賀・望月
おはようございます。

龍崎
社長の電話、またKIN-KIから？

古賀
ええ、今度の新作、予想以上に売れずっと品切れが続いてるじゃないですか、営業のお偉いさんからなんでそんな低い売上予測を立てたんだって。

龍崎
ったく、勝手なもんだなあ。

古賀
快拳ですよ。快拳、ゲーム・オブ・ザ・イヤーも夢じゃないっすよ！

龍崎
だと良いけどな。シンは？最近忙しそうだなあ。おい。

望月
はい、次の企画書書いてるんです。

龍崎
ほう、感心感心。タイトルは俺に任せとけよ。かっこいいヤツ考えてやるからな。

古賀
先輩のネーミングセンスが一番やばいっすよ。

龍崎
なんだと？

望月
すみません。タイトルはもう決まってるんです。

龍崎・古賀
え？

望月
チヒロ、タイトルは「チヒロ」です。

皆一瞬とまって望月を見る。

龍崎
ふーん、いいんじゃないかねーの。

開発室が日常の喧騒に戻っていく。

(終)